

書影を取り込める CMS を用いた言語活動の実践

Language activity using CMS for inputting a book's image

菅原 真悟^{*1}, 兵頭 一樹^{*2}, 舛川 竜治^{*3}, 新井 紀子^{*3}
Shingo Sugawara^{*1}, Kazuki Hyodo^{*2}, Ryuji Masukawa^{*3}, Noriko Arai^{*3}

^{*1}総合研究大学院大学

^{*1}The Graduate University for Advanced Studies

^{*2}埼玉県深谷市教育委員会

^{*2}Fukaya City Board of Education, Saitama Prefecture

^{*3}国立情報学研究所

^{*2}National Institute of Informatics

sugawara@nii.ac.jp

あらまし：新学習指導要領では、さまざまな教科で言語活動を行うことが強調されている。筆者らは、児童が図書を推薦する言語活動において、Web へのコンテンツ発信を伴う授業を提案する。このような授業を支援するために、小学校で広く普及している CMS (NetCommons) に書影を添付できるシステムを実装し、小学 5 年の国語で活用し評価を行った。その結果、書影を載せたコンテンツ発信が児童の学習意欲を高めるだけでなく、読書意欲を高める効果があることを示した。

キーワード：言語活動の充実, CMS, NetCommons, 初等教育, 国語科

1. はじめに

平成 23 (2011) 年度から初等教育において実施されている『新学習指導要領』(1)では、言語活動を充実させることが強調されている。文部科学省は、教科ごとに言語活動の具体例をまとめた『言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】』(2)を刊行し、例えば国語科では、「紹介したい本を取り上げて説明する」ことや「本を読んで推薦の文章を書く」といった事例を紹介している。

これまで「総合的な学習の時間」等の時間を使い、ブログを用いて本の紹介コンテンツを作成するといった実践は行われてきた(3)。本を紹介するコンテンツに書影を載せて Web へ公開することは、児童の学習意欲を高めるだけでなく、コンテンツを読んだ児童がその本に興味を持つといった効果も期待できる。しかし、書影には著作権があり、自由に Web コンテンツとして使うことはできない。そのため、これまでは文字だけで構成された単調なコンテンツを作るしかなく、児童の学習意欲を十分に高めることができなかつたと考えられる。

そこで我々は、児童が本を推薦する言語活動において、推薦したいと思っている本の書影を載せたコンテンツを作り、Web へ発信するプロセスを取り入れることを提案する。Web への情報発信を伴うことで、児童が本を推薦しようとする意欲を高めるだけでなく、友達が紹介した本に興味を持つようになる効果があると、我々は考えた。

2. Amazon を利用した書影添付機能の実装

Web コンテンツとして書影を使うためには、それぞれの出版社に許可を得る必要がある。しかし、EC サイトの Amazon は、出版社から許可を得てアフィ

リエイトとして使える書影を提供している。同じようなサービスを提供している EC サイトは多数存在するが、システムに実装するために必要な API を提供していたのが Amazon だけであったために、Amazon アフィリエイトを用いた書影挿入システムを実装することにした。

第三著者が中心となり、広く小学校に普及している CMS である NetCommons に、図書等を検索して簡単に書影を貼り付けられるよう追加機能の実装を行った。NetCommons はすべてのモジュールで同じ WYSIWYG を使い、ユーザーの利便性を高めている。書影を挿入する機能は、読書ブログのような専用モジュールではなく、汎用的に活用できることが望ましい。そこで、WYSIWYG に Amazon ボタンをつけ、ここをクリックして検索し書影等の画像を挿入できるようにした (図 1)。



図 1 NetCommons の WYSIWYG

3. 実践内容

実装したシステムは、2012 年 1 月に埼玉県 A 小学校の 5 年生 2 クラス (58 名) で、国語「おすすめの本をホームページから発信する」で活用し評価した。

この授業は「読書発表会をしよう」の単元を用い、指導要領の「C 読むこと」の①指導事項のオ「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考え

を広げたり深めたりする」や、②言語活動例エ「本を読んで推薦の文章を書くこと」を受けて設定した。さらに、指導要領の「B 書くこと」のウ「事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」等のねらいや指導内容にも取り組める授業とした。

授業は5時間のカリキュラムとし、児童が友達に推薦したいと思った本の内容と感想を100～150文字程度にまとめ、コンテンツを作成する。コンテンツ作成には、NetCommonsの汎用データベースを用い、Amazonボタンを使って書影の挿入を行う。図2は児童が作ったコンテンツの一例である。

各時間の授業内容は、最初の1校時は児童が本の紹介と感想をワークシートに書く時間とし、2・3校時はグループでワークシートに書いた文を推敲しあう時間、4・5校時をコンピュータ教室で推敲した文を入力し、Amazonボタンを用いて書影を挿入してコンテンツを作成する時間とした。

キャッチコピー	飛んでくる矢と戦うスーホの馬、最後の結末は・・・		
本のタイトル	スーホの白い馬	冒険・物語	
作者名	大塚勇三・赤羽末吉	年度/学年	23年度5年生
紹介文	 <p>私は、この本を読んで主人公のスーホと、馬に感動しました。スーホの馬が狼と戦ったり、攻撃され(斜)矢がささったり、読んでいると思わず手をぐっと握ってしまいます。最後に馬は死にそうになりますが、生きるということを教えてください。この本を読み、私は小さな命も大切にしたいと思いました。</p>		

図2 児童が作成したコンテンツの例

4. 評価

実践授業の前後で、児童に授業に関するアンケートを行った。有効回答数は54で、図3、4はアンケート結果をグラフにしたものである。

授業前アンケートの結果から、多くの児童は読書が好きで、読んで面白いと思った本を友達に紹介したいと思っていることが分かった。一方、読書感想文や作文を書くことや、書いたものを友達に見せることについては否定的な考えを持っていた。

授業後のアンケートでは、読書感想文や作文を書く時と比べて楽しく学べたと回答した児童が多く、作ったコンテンツを多くの人に見てもらいたいと思っていることが分かった。t検定を行った結果、授業前の「読書感想文や作文を友達に読んでもらいたい」と授業後の「自分が作ったコンテンツを多くの人に見てもらいたい」の間には、有意な差が見られた($t(53)=-10.627, p=.00(<.05)$)。

さらに授業後の自由記述アンケートでも、「世界中の人たちに自分がすいせんした本を読んでもらいたい」、「私のおすすめの本を読んでくれる人がふえたら、うれしい」など、自分が発信した情報を読んでほしいと思っている児童が多数いることが分かった。

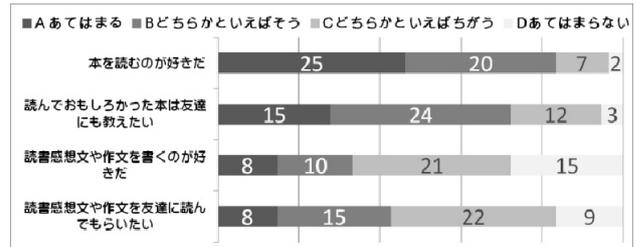


図3 授業前アンケートの結果

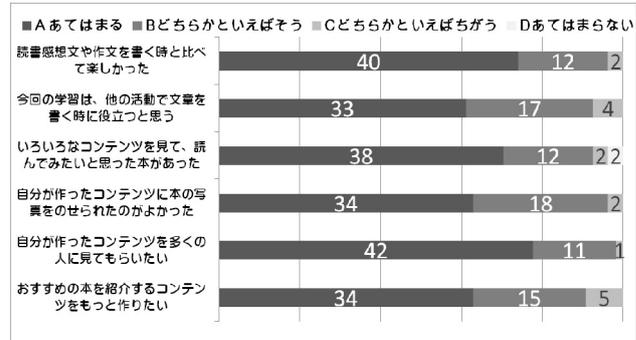


図4 授業後アンケートの結果

5. 考察

おすすめの本を紹介するコンテンツを作ってWebへ公開する言語活動は、読書感想文などよりも、児童が楽しみながら学習できることが分かった。また、書影を載せる機能についても、「本の写真をのせられたのがよかった」の問いに、「あてはまる」と答えた児童は34名、「なんとなくあてはまる」が18名、合わせて96%(52名)の児童が書影を載せる機能を肯定的に捉えていた。コンテンツに書影を載せる機能が児童の学習意欲を高めていたと思われる。

さらに、「友達が作ったコンテンツを見て、読んでみたい本があった」の問いに、「あてはまる」と答えた児童は38名、「どちらかといえばそう」が12名、合わせて93%(50名)の児童が読みたい本があったと回答していた。書影が載っていることが、児童が興味を持った理由の一つであると考えられる。今後は、本研究で行ったような本を推薦する言語活動と、読書活動とを連携させることも検討したい。

6. まとめと今後の課題

本研究では、書影を載せられるCMSを言語活動で活用することで、児童の学習意欲が高まる事を示した。今後は、得られたデータの分析を行い、従来の作文学習と比べてどの程度有効であるか、定量評価を行っていきたい。

参考文献

- (1) 文部科学省：“新学習指導要領”，文部科学省，東京(2010)
- (2) 文部科学省：“言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】”，文部科学省，東京(2011)
- (3) 永田亮,河合綾子,須田幸次,掛川淳一,森広浩一郎:” 作文履歴をトレース可能な子供コーパスの構築”，自然言語処理, Vol.17, No.2, pp.51-65 (2010)